

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会長 細谷 誠
幹事 松村 昌子
会報委員長 内海 慶介

お知らせ

5月のプログラム

4 (No.1)-お城まつり参加
14 (No.2)-客話9
21 (No.3)-客話10

ニコニコBOX;

祝誕生日
山本由臣君
21日IDM・中期計画委員会
宜しくお願いします
和泉君

<ニコニコ会計累積/¥187,500>

がんばるBOX;

小林様ありがとうございました。
細谷君 松村君 有家君
菅原AG、張米山奨学生
小川様をお迎えして
岡田君
5/30誕生日です
元気元気なおっさんです
今日もウエイトトレーニングして
消防団訓練に行きます
吉田君
業界の県の会長に就任しま
した。迷惑かけないように
頑張ります。
小川様ありがとうございました
神余様

<がんばる会計累積/¥205,000>

例会場・事務局

丸亀市塩飽町48-1 丸亀プラザビル

■会長挨拶

みなさんこんにちは

暑くなってきましたがご機嫌いかがでしょうか。

先週のお城まつりには連休中にもかかわらず多数ご参加いただきありがとうございました。当日風は強かったもののいい天気にも恵まれ、苗木も早い時間に配布し終えました。あらためてご協力に御礼申し上げます。

今日は米山奨学生の張靖沢(チョウセイタク)さんがお越しになっています。今年度お世話していただいております秋山恒嘉会員より後ほどご紹介させていただきたいと存じます。また次年度香川第二分区ガバナー補佐を務められます琴平ロータリークラブの菅原順三様がお越しになられています。後ほどご挨拶をお願い致します。

今日はおお客様も多くいらっしゃいますので、以上と致します。



■幹事報告

・6/12(金)14:00~「みんなで子どもを育てる県民運動」推進大会ご案内

■理事会報告

①6月の例会プログラムについて

②令和7年青森県東方沖地震支援金送金について、実施いたします

■例会事業;丸亀市社会福祉協議会地域共生社会推進グループ
グループリーダー 小川理子様



今日は丸亀市社会福祉協議会について、そして「子ども食堂」の取り組みについてお話しさせていただきます。私は丸亀市社会福祉協議会、地域共生社会推進グループの小川と申します。社協は、ひまわりセンター1階に事務所がありまして、もう30年ほどそこで活動しております。ただ、小学生に聞いても「社協って何?」と言われるくらい、まだまだ知られていない部分も多いんですね。今日はぜひ、皆さんに少しでも知っていただけたらと思っています。

まず、最近よく耳にする「子ども食堂」ですが、これは子どもが1人でも行ける、無料または低額の食堂のことです。最近では「みんな食堂」や「地域食堂」という名前で呼ばれることもあります。2012年に東京都大田区で始まった活動ですが、今では全国に1万2,600か所以上あると言われていています。しかもこれは把握できている数だけなので、実際はもっとあるだろうと言われていています。

丸亀市内でも現在、子ども食堂が11か所、居場所づくりの団体が11か所あり、17団体が活動しています。ただ、「そんなにあるのに見たことない」という声も多いんです。実は、もともと生活に困っている子どもたちへの支援から始まった活動なので、あまり大々的に宣伝をしていません。困っていることを周りに知られたくない子どもたちもいますし、配慮が必要なんですね。だから、口コミで静かに広がっているところも多いです。

(裏へ続く)

社協としては、こうした活動を支援しています。きっかけは平成29年頃、丸亀市内で「子ども食堂を立ち上げたい」という相談があったことでした。そこから少しずつ活動が広がり、令和3年には社協主催で団体同士の交流会を開きました。そして令和4年からは、丸亀市子育て支援課から委託を受け、「こども食堂ネットワーク事業」として本格的に支援を始めています。

具体的には、1回開催するごとに助成金を出したり、チラシ作成を手伝ったり、ボランティアを募集したりしています。特に課題として多いのが、「お金が足りない」「人手が足りない」「広報が難しい」の3つです。ご飯を作るスタッフがいない、子どもに来てもらう方法が分からない、そういう悩みを社協と一緒に支えています。

また、社協ではフードバンク事業も行っています。家庭や企業からいただいたお米、お菓子、レトルト食品、野菜などを集めて、子ども食堂や生活に困っている家庭へ届けています。年間30団体以上から寄付をいただいでいて、去年は柿500個や、さつまいも1,000本が届いたこともありました。全部の子ども食堂に配ったり、児童養護施設に届けていたりしています。

現場に行くと、子どもたちは「お菓子が欲しい」「ゲームが欲しい」って素直に言うんですね。だから最近はお菓子の寄付もすごく喜ばれています。大人は「お米が欲しい」と言いますが、子どもたちには子どもたちなりの楽しみがあるんです。

そして、社協が大事にしている言葉に「アウトリーチ」というものがあります。これは「支援が必要なのに、声を上げられない人を探しに行く」という意味です。待っているだけでは、本当に困っている人には届きません。だから私たちは、地域を回りながら、困っている子どもや高齢者、孤立している人がいないかを見えています。

例えば、「最近電気がついてない家がある」「新聞がたまっている」「子どもが夜遅くまでうろうろしている」など、小さな違和感でも構いません。社協に連絡をいただければ、私たちが動きます。皆さん自身が抱え込む必要はありません。地域全体で支えていくことが大切なんです。

子ども食堂というのは、ただご飯を食べる場所ではありません。子どもたちの居場所であり、孤立を防ぎ、人とのつながりを作る場所です。そしてそこには、高齢者や地域のボランティアの方も関わっています。地域みんなが支え合う、「地域共生社会」を作っていく取り組みなんです。

もし皆さんの周りで、「何か困っている人がおるな」「少し気になるな」ということがあれば、ぜひ社協に声をかけてください。地域のつながりが、一番大きな支援になると思っています。本日はありがとうございました。